

令和 7 年度

事業所名 : グループホームくるみ (1ユニット)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100094		
法人名	株式会社 ハートフェルトケア		
事業所名	グループホームくるみ (1ユニット)		
所在地	〒028-8804 岩手県九戸郡洋野町帯島7-44-3		
自己評価作成日	令和7年10月18日	評価結果市町村受理日	令和7年12月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvu
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺環境に自然が多く、動植物を目の当たりにする事により、思い出と共に良い感情への刺激や会話に繋げる事ができます。施設内の環境としては、ユニット間の行き来や、併設している小規模多機能ホームへの往來が自由にできる事から、利用者様同士が交流しやすい環境を活かしながら、日頃の介護や余暇活動を行なっております。今年度から、外出の機会を増やし、お花見や買い物、外食など、様々な行事を企画・実施する事で、生活の質の向上を目指しております。また、誕生会では、主役である利用者様が食べたいものを提供し、個性を尊重したケアを心掛けております。利用者様や職員の多くがこの地域の出身である為、入居に不安があった方も、馴染みやすいようで、対人関係においても安心できる様子が伺えます。地域に根差した施設である事に誇りを持ち、地元への思いを大切にしている職員が多く在籍しております。地域の方から頂く季節の野菜や、雪掻きといった日常のご協力、敬老会などの行事へのご招待を通じて、地域と繋がりがながら温かな関係を築いています。地域の方々との繋がりを大切にし、利用者様が地域の中で自然な形で生活を続けられるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

なだらかな丘陵地帯が広がり、豊かな自然に囲まれた場所に立地している。敷地内には小規模多機能ホームが併設されており、機械浴槽の利用、災害訓練の合同実施のほか、共用空間を自由に行き来できるなどのメリットがある。敷地内に開墾の石碑が建立されている地域であり、地域の方々や積雪時の除雪や花壇整備を手伝ってくれるほか、地元の婦人会が敬老会で踊りを披露し、地区の小学校のマラソン大会の日には利用者が沿道で応援するのが恒例となっている。利用者、職員とも地域の出身者が多く、地域に根ざした施設として親しまれている。看取り対応は行っていないが、系列クリニックの訪問診療を受けられるほか、系列施設の看護師に相談できる体制も整えており、可能な限り住み慣れた場所で安心して過ごせるように支援している。利用者と職員が共同で調理と片付けなどを行ない、郷土食のせんべい汁、ひつまみ汁などを提供して好評を得ている。天気の良い日は近くの牧場への散歩、近郊への花見やぶどう狩りなど季節の風景をドライブで楽しむことができているなど、利用者や家族の安心、信頼につながっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年11月25日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホームくるみ (1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を分かりやすい場所に掲示し、職員全員が常に目にする事ができるようにしております。また、職員の名札の裏にも理念を記載し、日々の業務の中で意識できるように配慮しております。不定期ではありますが、業務カンファレンスを通じて理念や事業所目標についての周知を行い、職員がそれを実践に活かしているか確認しております。	運営主体法人の企業理念と行動指針を基礎として、事業所開設に合わせて職員全員で話し合いながら重点目標を策定している。毎月の業務カンファレンスの際に確認しているほか、玄関前に掲示するなど全員が共有している。新任職員には、管理者が直接説明して介護の実践につないでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の草取りや花植え、地区敬老会への参加を通じて地域の方との交流を図っております。施設行事の際には、同地域の婦人会等に踊りの披露を依頼し、利用者様と地域の方々が交流できる機会を設けております。また、同地域に居住する職員がいる為、地域活動の情報収集や参加、地域との連携がスムーズに行われております。	事業所は民家の少ない地域に立地しているため近隣住民との交流機会は多くないが、積雪時には近くの住民に除雪などの協力をいただいている。また、事業所が毎年開催する敬老会には、地元の婦人会が参加して手踊りを披露しているほか、地区の文化祭には利用者の作品を出展している。近くの小学校のマラソン大会の日に利用者が沿道で応援しているほか、近隣住民から野菜などの差し入れもあり、地域とのつながりが大切にされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	家族様、地域の方、利用相談に来られた方の困り事や質問に関して、出来る限り対応させていただいております。少しでも理解していただけるように、ケアマネジャーや看護師の多職種と連携し、対応させていただいております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度より、2ヶ月に1回運営推進会議を実施しており、その場においてグループホームの現状や運営状況について報告を行なっております。会議では、参加されている地域の関係者の皆様から貴重なご意見やご要望などをいただ戴っており、今後の運営とサービスの質の向上に活かすよう努めております。	コロナ禍でしばらく中断していたが、今年の5月から対面方式で2ヶ月に1回会議を開催している。会議では、利用者の状況、行事・地域交流、外部評価の結果などの報告のほか、委員との意見交換を行なっている。この中で敬老会に地元婦人会が参加することが提案されたり、避難訓練の進め方についてアドバイスされることなどがあった。	議事録が作成されていることから、欠席委員に送付して会議を更に活性化することを期待します。また、地域の治安・安全対策を強化する観点から、駐在所の警察官にも年1回程度ゲスト委員として出席してもらうことを検討してみよう期待します。

令和 7 年度

事業所名 : グループホームくるみ (1ユニット)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	通知文やメール等で情報をいただきながら、町や地域包括支援センター主催の研修に参加させていただいております。管理者だけではなく職員も参加し、他事業所や多職種の方々と交流・情報共有の機会を大切にしております。また、他事業所から行事(和太鼓鑑賞)のお誘いをいただく事もあり、そうした機会を通じて、利用者様同士の交流や地域との繋がりを大切にしていきたいと考えております。	町福祉課とは随時メール・電話で連絡をとっているほか、要介護認定申請を代行して提出するため直接出向き必要な助言等をいただいている。また、町地域包括支援センターが開催する研修には職員が参加している。生活保護受給者についてはケースワーカーが調査のため毎年事業所を訪れ、事業所としても必要な対応をしており、町、県など行政機関との円滑な協力関係が作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月開催される事故・身体拘束委員会では、各事業所における身体拘束の有無を確認しております。身体拘束に関する研修を年2回実施し、知識と意識を向上させております。さらに、ケアカンファレンスでは、身体拘束に繋がらないケアを慎重に検討し、個々の利用者様に最適な支援方法を検討しております。日々のケアにおいては、言葉遣いを含め、身体拘束を助長する可能性のある言動に注意を払っております。	身体拘束に関する指針を定め、毎月、委員会を開催して対策等を話し合っている。スピーチロックと思われる言葉遣いがあった場合には、管理者がその都度注意しているほか、毎日一つだけヒヤリハットの事例を取り上げ、業務カンファレンスの場でも該当事例についての話し合いが行われている。研修は、全員がパソコンを利用してレポートを提出する方法が取られている。離床センサーは安全に配慮して家族の了解を得て、両ユニットで合計3人が使用しているが、あくまでもやむを得ない場合に限っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている。	全職員を対象に高齢者虐待に関する研修を実施し、虐待防止に関する知識の習得に努めております。研修では、身体的・精神的虐待だけでなく、ネグレクトや心理的虐待など、様々な形態の虐待について学び、何気ない言動や行動が虐待に繋がる可能性について理解を深めております。職員一人ひとりが虐待の意識を持ち、利用者様の尊厳を守り、安心してサービスをご利用いただけるよう、日々の業務に取り組んでおります。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	支援が困難な利用者様に対しては、必要に応じて成年後見制度の活用を検討し、関係機関と連携し適切な支援に繋げる様に努めております。現在、1名の利用者様について制度利用を検討中です。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームくるみ (1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、家族様に対して丁寧な説明を心掛け、不安や疑問が残らないように配慮しております。加算等により料金に変更となる場合には、2ヶ月前に書面で通知し、不明な点があればいつでもお問い合わせいただけるように案内しております。家族様からの質問には出来る限りその場で回答し、即答できない場合は速やかに確認し、対応するように努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	以前家族様からのご意見で、面会室の設置についての要望がありました。面会室の設置について検討しましたが、スペース確保や感染対策の観点から設置が難しいと判断した為、寒さ対策として玄関にヒーターを設置して対応しました。面会時には、最近の様子等を伝えるとともに、家族様のご意見や希望を伺う様にしております。いただいたご意見・希望は、カンファレンス等で検討し、今後のサービス改善に活かしております。	家族が面会で来所したり電話のあった際には、どんなことでも質問や意見を聞くよう努めている。事業所内に意見箱を設置しているものの、今のところ投函は見られない。運営推進会議の委員に家族代表が就任しており、日々のサービスに対する具体的な要望や意見、気づいた点を直接伺えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月業務カンファレンス、ケアカンファレンスを実施し、職員間で意見交換を行っております。管理者の一方的な決定ではなく、職員の意見を反映させ、話し合いの結果を実践に移す事を心掛けています。管理者として判断が必要な事項については、その理由を説明し、職員に対して適切に指示を出すように努めております。	毎月全職員が出席する業務カンファレンスで職員からの意見や提案等を聞いている。この中で、夜間のケア対応で迷う事例があり、全員で協議してケアの方法の統一につながった例もある。今年度から職員が自己評価し、管理者と職員が個人面談を実施することとしており、待遇面やキャリアアップなどを聞き取り、働きやすい職場環境づくりや介護支援の質の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	今年度より、福利厚生の実施を巡り、誕生日休暇や、系列のクリニックの受診代を毎月5,000円まで助成等を取り入れ、職員の健康やプライベートの充実を支援しております。これらの制度については職員からアンケートを実施し、会社として確認、検討を行い、福利厚生の実施に努めました。また、人事評価のあり方についても再度検討し、10月に自己評価、11月には面談を予定しております。この評価制度により、職員が向上心を持ち、やりがいを感じて働ける環境を整えていこうと考えております。		

事業所名 : グループホームくるみ (1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間の研修計画を立て、毎月研修を実施しております。机上の研修だと参加率が低くなりがちなので、Zoomを活用した研修を行い、職員が参加しやすい環境を整えております。職員が理解していない事があれば、管理者が業務カンファレンスでその内容を議題として取り上げ、ケアマネや管理者が直接指導する等、学びの機会を提供しております。職員が働きながら資格取得できるような支援も行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域包括支援センター主催の認知症カフェや、保健センター主催の研修に参加し、同業者や役場関係者と交流を深め、情報共有をさせていただいております。何か困った事案があった際は、その場で相談をさせていただいたり、サービスの質の向上に努めております。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前に、本人様からの聞き取りは出来ない事が多い為、家族様から情報収集を行います。その情報を基にサービス開始前にカンファレンスを実施し、情報共有を行っております。入居後は、職員が率先して利用者様とコミュニケーションを取り、信頼関係を築くように努めながら、利用者様の状況を把握しております。些細な事でも記録に残し、必要に応じて検討し、対応しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用相談時には、家族様が困っている事や希望を丁寧に聞き取り、提供できるサービスについて分かりやすく説明する事を心掛けております。サービス開始前も、家族様とのコミュニケーションを大切にし、言葉遣いにも注意を払っています。入居後、利用者様に変化があった際には、家族様に連絡し、情報共有や相談を行い、意見をいただく事で家族様の不安を軽減できるように努めております。家族様と密に連絡を取り合い、信頼関係を築けるように努めております。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームくるみ (1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族様への聞き取りの中で、「すぐに入所先を見つけない」といった緊急性の高い相談を受ける事もあります。その際は、状況を見極めた上で、系列施設の紹介や、施設管理者への相談、情報共有を行いながら、適切な対応に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	調理が得意な利用者様と一緒に昼食の準備を行っております。片付けは本人様がほとんど一人で行われ、職員は見守りを中心に関わっております。利用者様から「やりたい」という希望がある場合は、必要に応じて付き添いやサポートを行っております。職員が主導しすぎないように意識しながら、出来る限り利用者様主体で支援を行うように心掛けております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様宛に3ヶ月に一度、施設での様子を手紙でお伝えしております。また、体調の変化や何か気になる事があった際には、ご家族様へ報告・相談し、必要な対応をとっております。家族様から連絡や面会時にも、その都度利用者様の様子をお伝えするようにしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者様からおやつの希望があった際には、同地域の商店に依頼し、配達をお願いしております。面会についても、特別な支障がない限り対応しており、キーパーソン以外の方が来られた場合は、後日キーパーソンへ報告するようにしております。また、地区敬老会等、地域行事の参加確認があった際は、施設の都合だけで判断せず、必ず本人様・家族様の意向を確認し、対応しております。	友人が面会に来るほか、地区の敬老会に希望者が出席している。10月の地区文化祭には利用者が作品を出展し、その出展した作品を見に行っている。新聞をホールに置いており、習慣として地域の出来事などに熱心に目を通す人もいる。理容師やヤクルトレディが定期的に訪れるなど新たな馴染みの関係も生まれている。盆や正月に外泊する人もおり、馴染みの関係継続の支援に努めている。	

事業所名 : グループホームくるみ (1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士が過ごしやすいように仲の良い方や話しやすい方向士が座れるように、テーブルの配置にも配慮しております。利用者様間でトラブルに繋がるような事があった場合は、ヒヤリハットとして記録し、職員間で共有・検討しながら対応しております。中には一人で過ごす事を好まれる利用者様もいる為、その場合は無理に関わりを持たせず、職員が適度に声掛けや関わりを行うようにしております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	急変によりお亡くなりになられた利用者様がいらっしゃいました。契約終了後に、家族様より「急変した日の様子を知りたい」との希望があり、これまでの関係を大切にしながら、できる限り対応をさせていただきました。今後も同様に契約終了後も家族様から依頼があった際は、対応していきたいと考えております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様から訴えがあった際には、ケアカンファレンスにて情報を共有し、職員間で検討した上で対応しております。初めから「対応が困難」と決めつけるのではなく、どのような方法が可能かを前向きに検討する様努めております。急を要する場合には、その場で職員同士が迅速に共有、対応を行っております。また、意思疎通が難しい利用者様に対しては、関わりが深い職員が日頃の表情や動き、反応等から思いを汲み取り、ケアに繋げる様にしております。	言葉で意思の伝達が困難な利用者が少数数いるが、仕草や表情で意向を概ね把握できている。特に経験の長い職員は、意思疎通が困難な利用者の非言語的なサインを注意深く観察し、そこから感情や意図をくみ取ることに長けている。それらを含め、日誌や朝夕の申し送り、業務カンファレンスを通じ、職員が共有することに努めており、介護の実践に活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用開始前に、家族様から話を伺い、生活歴やこれまでの暮らしぶりを把握するように努めております。当施設にはこの地域の出身職員も多く在籍しており、職員を通して、利用者様の生活歴や地域での関わりについて、より詳しく知る事ができる場合もあります。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームくるみ (1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎月1回ケアカンファレンスを開催し、利用者様一人ひとりのケア内容の見直しや検討を行っております。利用者様に変化があった際は、その都度情報共有し、職員間で対応方法の検討をする体制を整えております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネジャーが、本人様の思いや家族様の希望を丁寧に確認し、それを反映したケアプランを作成しております。定期的にモニタリングやサービス担当者会議を実施し、ケア内容が本人様の状況やニーズに合っているかを確認、見直ししながら、その人らしい生活に寄り添った支援を提供できるように努めております。	入居申込み時にはケアマネジャーが聞き取りしてプランの原案を作成している。入居して最初の1ヵ月はモニタリングを行い、通常6カ月の計画とするが、必要に応じて3カ月の短期、1年の長期とする場合もある。モニタリングは居室担当とケアマネジャーが中心に行い、ケアカンファレンスで全職員の意見を聞いている。見直しの際には、主治医や看護師の意見等を取り入れ、作成後は家族に説明のうえで了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	どんなに小さな変化や気づきであっても、個別記録に残すように心掛けております。ケアの見直しや対応が必要と判断される場合は、ケアカンファレンスにて検討を行っております。早急な情報共有が必要とされる時は、口頭での申し送り、パソコンでの申し送りを活用し、職員間で確実に情報を共有できるように努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族様から外出や外泊の希望があった際には、制限を設けず、利用者様の状態や状況に応じて柔軟に対応しております。また、個別ケアを大切にしたいと思っております。利用者様が嫌がる事は無理に強要することはせず、本人様の意思を尊重したケアを心掛けております。誕生日には「何を食べたいか」を事前に聞き取り、できる限り希望に沿った食事提供を行っております。		

事業所名 : グループホームくるみ (1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	同地域の小学校の運動会やマラソン大会では、利用者様と鑑賞・応援に出向き、地域の様子を身近に感じられる機会としております。地域住民の方より野菜を寄付していただいたりと地域の温かい支えを受けながら日々の生活を送っております。隣接する小規模多機能ホームとは、合同でレクリエーションや行事を開催し、利用者様同士の交流を図っております。地区婦人会様に依頼し、行事の際に踊りを披露していただく事もあり、昔からの知人と再会し喜ばれる場面も見られます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	多くの利用者様が訪問診療に移行していますが、その際は本人様・家族様に丁寧に説明し、意思確認の上で対応しております。系列のクリニックに訪問診療を依頼しており、日頃からスムーズな連携が取れている事が安心した医療の提供に繋がっております。体調の変化が見られた際は、速やかにかかりつけ医に相談し、系列のクリニックでは必要に応じて施設に来て診察を行なって下さる事もあります。また、医療的な判断が必要な際には、家族様と十分に話し合いながら、状況に応じた最善の対応ができるように努めております。	利用者の同意を得て、ほとんどが系列クリニックの「訪問診療」を受けている。眼科、整形外科、歯科を受診するときは職員が送迎しての受診となっている。精神科に通院する1人は家族が同行しており、その際、バイタルなどの記録を託し、受診後に家族から様子を聞き取りしている。事業所内には看護師が配置されており、昼夜を問わずに相談できる体制が整っている。受診に伴う利用者や家族の負担がほとんどなく、安全、安心な医療が確保されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者様の体調に変化があったり、いつもと様子が違うと感じた場合には、速やかに看護師へ報告・相談を行うようにしております。看護師が出勤している日は、朝・夕のミーティングに必ず出席して貰い、日々の利用者様の状態把握や介護職からの相談対応を行っております。看護師の指示が必要な場合で施設看護師に連絡がつかない時には、系列施設の看護師に相談できる体制も整えており、看護職と協力して適切な対応が取れるよう努めております。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームくるみ (1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際には、ケアマネジャーが速やかに情報提供書を作成し、医療機関へ提出しております。医療機関からの問い合わせに対しても、時間をおくことなく迅速に対応するように心掛けており、必要な情報共有を通じて、本人様が安心して治療を受けられるよう支援しております。また退院後の受け入れについて調整が必要な場合は、その旨を医療機関に正確に伝え、無理のない形での連携を図る様に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	現段階では当施設で看取り対応は行なっており、利用者様に何かあった際には、医療機関への救急搬送を基本とさせていただいております。	経管栄養と喀痰吸引といった医療的ケアが困難であること、また、協力医療機関で土日対応が困難なことから、看取り介護が出来ないことを入居時に家族に説明している。事業所での生活が継続できない場合には医療機関または特養への転居を勧めており、家族からも理解を得ている。終末期にあたる利用者への対応について、職員の知識を深めるため年3回外部講師を招いた研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時に備え、年に1回AED講習を受講し、職員の応急処置に関する知識と実践力の向上に努めております。日々の業務の中で気づきや小さなリスクを見逃さないように、毎日1件ヒヤリハットを報告・共有する体制を取り、職員全体で注意喚起を行っております。緊急時に想定されるリスクについては、カンファレンスの議題として取り上げ、看護師や管理者から対応策についての説明・確認を行い、全職員が適切に対応できるように努めております。		

事業所名 : グループホームくるみ (1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、災害を想定した避難訓練を実施しております。そのうち1回は、消防署・地域の消防団に依頼し、火災を想定した訓練を行い、もう1回は施設のみで自主避難訓練を実施しております。避難訓練の前にはカンファレンスを行い、対応手順や避難経路、職員の役割分担を確認しながらシミュレーションも行い、全職員が初期対応を身につけられるように取り組んでおります。また、運営推進会議を通じて地域の方にも協力依頼し、地域との連携体制の構築にも努めております。	避難訓練は併設の小規模多機能ホームと合同で年2回実施している。1回目は消防署立会いのもとで通報訓練と避難訓練、2回目は土砂災害を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議委員の消防団の分団長が訓練の際に立会し、助言指導をいただいている。ハザードマップ上は浸水想定区域になっていないが、土砂災害は発生の怖れがあるものと常に意識している。非常時のため3日分以上の食料、水、自家発電機、灯油ストーブなどを備蓄している。熊の出没などの情報もあり、今後、地域との協力体制を更に強固なものにするよう検討を進めることとしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	年に1回以上、接遇マナーやプライバシー保護に関する研修を実施し、職員一人ひとりの意識向上に努めております。言葉遣いや態度に不適切な点が見られた場合には、管理者が適宜注意・指導を行い、適切な接遇が行われるように努めております。プライバシー確保の基本として、トイレのドアをきちんと閉める等、初歩的な配慮から日々のケアまで注意を促し、全職員で周知を図っております。利用者様が自分でできる事については見守りに徹し、過度なケアを行わないよう配慮する事で自立を支援し、尊厳を守る介護を心掛けております。	日頃から命令的あるいは指示的な言葉遣いをしないように心掛けている。毎年、個人情報とプライバシーに関する研修を行い意識を高めている。利用者の写真を広報に掲載するときに、同意を得られない方は一部モザイク処理を行うなどの配慮をしている。ケース記録など個人情報を含む書類は鍵付きの書庫に保管している。自立支援という観点から、例えばフォークより多様な動きを必要とする箸を使ってもらうことを心掛けて支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員主体ではなく、利用者様の意見や意思を尊重した対応を心がけ、「自分で選ぶ」「自分で決める」ことを大切にしております。食事の際には、パンかご飯か選んでいただいたり、誕生日以外でも「何を食べたいか」伺い、できる限り希望に沿った食事を提供するようにしております。入浴に関しても、拒否がある場合には、無理に促す事はせず、時間を置いて再度声を掛ける、または別日に変更する等、本人様のペースを尊重した対応を行っております。ただ、週2回の入浴という基本的なケアは確保しつつ、柔軟な対応をできるように努めております。		

事業所名 : グループホームくるみ (1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事の提供時間は基本的に決まっていますが、眠気が強い方や体調が優れない方がいる場合には、無理に起こす事はせず、本人様のペースに合わせて時間を調整する等柔軟に対応しております。日々行っているレクリエーション活動についても、参加はあくまで自由としており強制する事はありません。活動内容にはそれぞれ向き・不向きがある為、ケアカンファレンスで、どのような活動を楽しめるか・どんな趣味があるかといった点を職員間で話し合い、その方に合った内容を取り入れるように心掛けております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	当施設では、女性職員のみである特性を活かし、利用者様の身だしなみに特に配慮した支援を行っております。爪の手入れや女性でも髭が伸びる方への髭剃りの実施、食べこぼし等による衣類の着替え対応を徹底しております。入浴時には、利用者様に声を掛けながら着替えの準備を行い、衣類を選んでいただいております。衣類選びが難しい利用者様には、季節や天候に合わせて職員が服を選び、快適に過ごしていただけるように配慮しております。衣替えも適切な時期に実施しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	不定期ではありますが、厨房職員が利用者様に食べたい物を聞き取り、献立に反映しております。調理や片付けを率先して行う利用者様もおられます。その様子を見て他利用者様も茶碗拭きを手伝いたいと希望される方もいます。その際は、無理のない範囲で実際に茶碗拭きをしていただいております。	利用者の希望を聞きながら職員と共同で調理と片付け、茶碗拭きなどを行なっている。希望の多いカレー、豚汁のほか、郷土食のせんべい汁、ひつまみ汁などをメニューに積極的に加えている。誕生日の特別食は、利用者の好みやリクエストに応じて提供している。敬老会では、町内の飲食店から弁当を取り寄せて食事を楽しんでもらっている。おやつは様々なものを作っているが、うきうき団子やどら焼き、芋餅、ホットケーキなどを提供することが多い。近所から差入れのある野菜などを食材として利用することもある。	

事業所名 : グループホームくるみ (1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分補給時に提供できる飲み物は決まっていますが、好まれない利用者様には家族様にお願いし、好みの飲み物を持って来ていただいております。また、体調に応じて水分量の調整が必要な場合は、申し送りを通して情報共有を行い、適切な対応に努めております。食事形態についても、ケアカンファレンスで検討し、早急な対応が必要な場合は、当日の出勤職員間で話し合い、変更を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアはもちろん、歯ブラシや歯磨きコップの衛生を保つ為、週に一回の洗浄・消毒を徹底しております。認知症の進行により歯磨きが難しい利用者様には、声掛けを工夫して対応したり、小さめの歯ブラシを使用する等、磨きやすい環境作りに配慮しております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	トイレ誘導の時間を決めて対応しております。ケアの統一を図る為、ケアカンファレンスで排泄リズムに関する情報交換や対応方法の検討を行っております。また、排泄介助における職員間の対応のばらつきを防ぐ為、継続的な周知徹底に努めております。	一人ひとりの排泄の傾向を把握し、確認しながらトイレへの誘導に努めている。時として失敗した場合でも、自尊心を傷つけないようにさりげない言葉遣いに注意している。現在、おむつが3人、布パンツ4人、他はリハビリパンツなどを使用している。布パンツの2人は以前はリハビリパンツを使用しており、支援継続の成果がみられる。夜間にポータブルトイレが2人、離床センサーが2人いるが、あくまで不安解消のために備えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	系列のクリニック医師から便秘時の対応について指示を受け、便秘予防の為の対応を統一して実施しております。定期受診時には排便状況を報告し、便秘の予防に努めております。長期間便秘傾向にある利用者様に関しても医師に相談し、適切な指示を受ける事で改善に至っております。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホームくるみ (1ユニット)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	週2回の入浴は曜日指定で実施していますが、利用者様の気分や体調に応じて時間を変更したり、清拭対応に切り替えたり、翌日に入浴を行う等柔軟に対応しております。また、時々ですが入浴剤を使用し、入浴を楽しんでいただけるよう工夫しております。	原則として週2回を目途にスタッフと一対一で入浴している。原則として同性による入浴介助に配慮している。入浴中は音楽を流したり、職員との会話を楽しめるように心掛けている。入浴後は看護師が保湿剤を塗布しながら皮膚の状態を確認するなど、健康管理に努めている。今のところ入浴を拒否する利用者はいない。脱衣室・浴室ともに暖房を完備し、安全・安心な入浴を確保している。	ゆず湯や菖蒲湯などの「季節湯」は、季節感の提供、リラックス効果などにも有効ですので、これらの工夫を取り入れてみることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	消灯時間を定めておりません。介助が必要な方を除き、利用者様は眠くなった際に各居室で自由に休まれております。レクリエーション活動についても、休息を希望される方へ強制参加は行っておりません。朝は無理に起こさず、食事時間に間に合わない場合でも、起床後に食事を提供しております。昼夜逆転の傾向がある方には、日中の活動時間に無理のない範囲で声掛けを行い、起きて過ごせるよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の管理は看護師が行い、1日分の内服セットについては介護職がダブルチェックを徹底しております。服薬指導の内容はパソコンの申し送りを通じて全職員に周知し、副作用や出現しうる症状についても詳細に記録しております。薬の変更時には、内服方法や注意事項を確実に共有し、対応に漏れがないように努めております。また、利用者様に様子の変化が見られた際は、速やかに看護師へ報告する体制を整えております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様の嗜好に合わせ、好きなおやつやコーヒーを個別に購入し、希望に応じて提供しております。裁縫を仕事にされていた方には、他利用者様の衣類の修繕をお願いする等、生活歴を活かした役割支援も取り入れております。レクリエーション活動の中で利用者様の得意な事を見つけ、それを日々の活動に取り入れる事で、意欲や自信に繋がる支援を行っております。		

事業所名 : グループホームくるみ (1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	行事等を通じて、屋外活動を行っております。花見や外食、同地区小学校行事参観、他事業所行事への参加、ぶどう狩りなどを実施しており、費用が発生する際は事前に家族様へ説明し、了承を得てから行っております。また、利用者様から散歩の希望があった場合には、職員の体制が整っていれば付き添いを行い、安全に配慮した対応をしております。	天気の良い日は事業所周辺を職員と一緒に散歩することとしており、近くの牧場へ牛を見に行くこともある。しかし、今年の夏は暑く、最近熊の情報もあり、日常の散歩が難しくなっている。久慈市の巽山公園、青森県の南部町などに花見やぶどう狩りといった季節の風景をドライブで楽しんでもらっている。また、近隣小学校のマラソン大会の日には沿道で応援するのが恒例となっている。お盆や正月に外泊する人もおり、さまざまな外出支援が行われている。	職員の配置が十分といえないなどの課題がありますが、利用者一人ひとりへの個別の外出支援に向けてさらに検討していくことを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者様の現金の持ち込みは禁止しており、トラブル防止の為、個人の現金はお預かりしておりません。必要な物がある場合は、家族様に連絡し購入していただくか、施設が立替で購入しております。この対応については、家族様に事前に説明し、ご理解とご了承をいただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者様から電話をかけたい・手紙を書きたいという希望はない為、個別の支援は行っていません。家族様からお電話があった際に、家族様が本人様と話したいと希望された場合には、おつなぎしております。また、施設からは年に4回、写真付きの手紙を通して家族様へ利用者様の施設での様子をお伝えしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間では、利用者様が快適に過ごせるよう、空調の温度は一定に設定し、環境を整えています。それでも暑さ・寒さを感じる方には、衣類やひざ掛け等で調整を行い、個別に対応しております。また、居間スペースには、季節に応じた飾り等を配置し、季節感を感じられる工夫をしております。必要な物以外は、極力置かず、通行や生活の妨げにならないようスペース確保にも配慮しております。	清潔に保たれた共用空間は、白い壁と木質床材により柔らかな雰囲気となっている。エアコン、ヒーターが設置され、年間を通して快適な環境を維持している。壁には季節ごとに写真や作品が飾られ、居心地よく過ごせるように工夫されている。併設の小規模多機能ホームと自由に行き来できることもあり、利用者同士の交流が容易となっている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームくるみ (1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様が居室ではなく共用スペースで休みたいと希望される事もある為、日当たりの良い場所にソファを設置し、ゆったりと横になって休めるよう工夫しております。施設内には2つのユニットがありますが、行き来は自由としており、別のユニットでテレビを観たり、昼寝をされたりと、それぞれが心地よく過ごせる場所を選べるようにしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	危険物以外の持ち込みについては制限しておらず、利用者様が快適に過ごせるよう配慮しております。実際に、遺影や位牌を持ち込まれる方もおり、居室内は自由に使っていただいております。また、写真を飾ったり、家族様から送られたハガキを飾る等、一人ひとりが思い思いの物に囲まれて居心地良く過ごせる環境作りを行っております。	居室にはベッド、クローゼット、カーテンが備え付けられており、利用者は、テレビ、衣装ケース、位牌、遺影などを自由に持ち込み、慣れ親しんだ環境で過ごすことができている。部屋には個別にエアコンが設置されていないが、共用部にあるエアコンで管理されている。冬季間、共用部から遠い奥の部屋には暖房器具を設置しており、不安なく快適に過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの場所がすぐ分かるように、戸にかわりやすい表示をつけております。洗濯物を自分で干したいという希望がある方には、低めの位置にハンガーを設置し、安全に取り組めるように配慮しております。自分の居室が分かり易いように、部屋の戸に名前や写真を貼る等の工夫を行っております。		